

健康科学部

< 臨床検査学科 >

科目名	ページ
<u>専門基礎科目</u>	
<u>人体の構造と機能</u>	
解剖学	1
解剖学実習	2
生理学	3
生化学Ⅰ（物質生化学）	4
生化学Ⅱ（代謝生化学）	5
生化学実習	6
<u>医学検査の基礎とその疾病との関連</u>	
病理学総論	7
微生物学	8
血液学	9
<u>保健医療福祉と医学検査</u>	
医学概論	10
チーム医療概論	11
<u>専門科目</u>	
<u>臨床病態学</u>	
臨床医学総論	12
<u>生物化学分析検査学</u>	
臨床検査学基礎実習	13
臨床検査総論	14
<u>生理機能検査学</u>	
救急救命法	15
生理機能検査学Ⅰ（基礎）	16

授 業 科 目	解剖学	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 前期		
担 当 教 員	田口 尚弘		
授 業 の 目 的	たった1つの受精卵からどのように人体が発生していくのか、その過程について理解する。さらに、正常な人体の構造を肉眼レベルから顕微鏡で観察できる組織や細胞レベルでの形態学的構造とその機能について理解する。		
到 達 目 標	様々な器官がどのように成り立ち、人体として構成され、機能しているか説明できる。人体を構成する各器官の構造について説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	総論	
	2	骨格系	
	3	筋系	
	4	循環器系 (心臓、血管、リンパ)	
	5	消化器系 (口腔、唾液腺、食道、胃、小腸、大腸)	
	6	消化器系 (肝臓、胆嚢、膵臓)	
	7	呼吸器系 (鼻腔、気管、気管支、肺)	
	8	泌尿器系 (腎臓、尿管、膀胱)	
	9	生殖器系 男性生殖器系 (精巣、精巣上体、精管、前立腺、陰茎) 女性生殖器系 (卵巣、卵管、子宮、膣、陰核、乳腺)	
	10	内分泌系 (下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎)	
	11	神経系 (中枢神経：脳、脊髄)	
	12	神経系 (末梢神経：脳神経、脊髄神経)	
	13	神経系 (自律神経：交感神経、副交感神経)	
	14	感覚器系 (視覚器、平衡聴覚器、皮膚)	
	15	発生学 (受精から着床、外胚葉、内胚葉、中胚葉、胎児循環)	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	『入門人体解剖学』藤田恒夫 (南江堂) 『入門組織学』牛木辰男 (南江堂)		
参 考 文 献	『解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理』岡田隆夫 (羊土社) 『標準組織学 総論・各論』藤田恒夫、藤田尚男 (医学書院) 図書館には解剖学に関する書籍が多く所蔵されているので、適宜参考にする。		
評 価 方 法 ・ 基 準	授業への取組 (20%)、試験 (80%)。 人体を構成する各器官の構造について説明できる。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	講義の前後に教科書をよく読み、図や写真を十分に観察して理解する。 毎回の講義で学習したことをしっかりレポートにまとめる。 予習・復習合計2時間		
オ フ ィ ス ア リ ー	月曜日 17:40~18:40		
履 修 上 の 注 意 事 項	解剖学は医学を学ぶ上で最も基礎となる学問です。 しっかり予習復習に取り組み、わからないところは積極的に質問してください。		

授 業 科 目	解剖学実習	授業の方法・単位	実習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	田口 尚弘、三木 友香理、高橋 保		
授 業 の 目 的	解剖学で学習した人体の構造について、肉眼や顕微鏡を通して標本を観察することにより理解を深める。		
到 達 目 標	人体を構成する各種器官の構造や機能について組織学的に説明できる。 また、系統別に各種器官の組織構造を描き、細胞レベルで名称を説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 3 時 間	1	組織学実習の手順の説明。光学顕微鏡使用法説明。 上皮組織（単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮） スケッチ	
	2	上皮組織（重層扁平上皮、多列円柱上皮、移行上皮）、軟骨組織（気管、耳介） スケッチ	
	3	脈管系（動脈【筋型、弾性型】、静脈、毛細血管、心臓） スケッチ	
	4	リンパ性器官（リンパ節、扁桃、脾臓、胸腺） スケッチ	
	5	消化器系 ①（舌、味蕾、耳下腺、顎下腺、舌下腺） スケッチ	
	6	消化器系 ②（食道、胃体部、十二指腸、回腸、大腸） スケッチ	
	7	消化器系 ③（肝臓【肝小葉、グリソン鞘】、胆嚢、膵臓） スケッチ	
	8	呼吸器系（鼻腔、気管、肺） スケッチ	
	9	泌尿器系（腎臓【腎小体、尿細管】、尿管、膀胱） スケッチ	
	10	男性生殖器（精巣【精子発生】、精巣上体、精管、前立腺） スケッチ	
	11	女性生殖器（卵巣【卵の成熟過程】、卵管、子宮、胎盤） スケッチ	
	12	内分泌系（脳下垂体、甲状腺、副腎） スケッチ	
	13	感覚器系（皮膚【皮膚の知覚装置】、視覚器） スケッチ	
	14	神経系（大脳、小脳、脊髄） スケッチ	
	15	人体解剖実習の見学（系統解剖見学実習 香川大学医学部） レポート課題	
	16	試験	
授 業 形 態	共同。グループワークやディスカッションを交える。		
テ キ ス ト	『入門人体解剖学』藤田恒夫（南江堂） 『入門組織学』牛木辰男（南江堂）		
参 考 文 献	『標準組織学 総論・各論』藤田恒夫、藤田尚男（医学書院）、 図書館に所蔵されている『組織学 カラーアトラス』などの参考書を積極的に活用すること		
評 価 方 法 ・ 基 準	試験（70%）、スケッチ（20%）、レポート（10%）。 系統別に各種器官の組織構造を描き、細胞レベルで名称を説明できる。 試験のフィードバックは、2年次の病理検査学、臨床検査医学で行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	実習前に必ず教科書をよく読み、図や写真を十分に観察して理解しておく。 時間内にスケッチを終了し、必ず提出すること。		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日 17:40～18:40		
履 修 上 の 注 意 事 項	白衣、名札、色鉛筆、スケッチブック（第1回の実習時に配布）を忘れずに持参すること。		

授 業 科 目	生理学	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 前期		
担 当 教 員	今井 正		
授 業 の 目 的	基礎医学としての生理学は、臨床医学を学ぶ上で必須の知識である。人がどのようにして生命を維持し活動しているのかを、人体の巧妙な仕組みや働き（機能）を理解し簡潔に説明できる。		
到 達 目 標	各器官（循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、神経、筋、内分泌）相互の関連性とその調節機能により維持される恒常性について、簡潔に説明ができる。また、生体の主要な臓器が持つ調節機能の不具合により生じる病態について、簡潔に説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	体液	
	2	血液	
	3	循環1（心臓の構造と機能）	
	4	循環2（血管）	
	5	循環3（血圧と調節）	
	6	呼吸1（呼吸器の構造）	
	7	呼吸2（呼吸器の機能）	
	8	尿の生成と排泄	
	9	消化と吸収	
	10	代謝および栄養	
	11	体温とその調節・内分泌	
	12	神経1	
	13	神経2	
	14	筋肉	
	15	感覚	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。講義は全てパワーポイントでおこなう。授業前確認小テスト4回実施（各10分間）。		
テ キ ス ト	Qシリーズ 新生理学 竹内 昭博 日本医事新報社		
参 考 文 献	系統看護学講座 基礎専門① 解剖生理学（医学書院）		
評 価 方 法 ・ 基 準	授業前確認小テスト（50%）、定期試験（40%）、授業への取り組み（10%）。 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	授業前確認小テストは授業前に復習試験として4回行います。前回迄の授業の内容を復習し理解を深めておくこと。予習・復習合計4時間		
オ フ ィ ス ア ワ ー	月曜日 16:00～18:00		
履 修 上 の 注 意 事 項	予習、復習が大切です。授業に積極的に参加し、疑問な点は質問して理解を深めましょう。		

授 業 科 目	生化学 I (物質生化学)	授業の方法・単位	講義・2単位	
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 前期			
担 当 教 員	富永 麻理			
授 業 の 目 的	医学を含む生命科学の広い分野で、生命現象の解明が急速に進んでいる。臨床検査技師に求められる基礎的な知識を習得するために、生命科学の基本的理解に必要な生体成分の物質化学の知識と考え方を、「ヒトのからだ」を対象に学ぶ。			
到 達 目 標	生命現象を化学の立場から捉え、生体を構成する物質あるいは生体が産生する物質の構造と働きを分子・原子・電子レベルで理解することができる。			
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	生命現象と生化学		
	2	糖質の構造と機能 1 (糖の定義と分類/糖の構造)		
	3	糖質の構造と機能 2 (糖の異性体/二糖類)		
	4	糖質の構造と機能 3 (多糖類/糖の性質)	課題	
	5	脂質の構造と機能 1 (脂質の定義と分類/脂肪酸)	課題のフィードバック	
	6	脂質の構造と機能 2 (中性脂肪/リン脂質)		
	7	脂質の構造と機能 3 (スフィンゴ脂質/テルペン類/脂質の性質)		
	8	タンパク質の構造と機能 1 (アミノ酸・タンパク質の定義と分類)		
	9	タンパク質の構造と機能 2 (アミノ酸の構造と性質)		
	10	タンパク質の構造と機能 3 (タンパク質の構造と性質)		
	11	核酸の構造と機能 1 (ヌクレオチド・核酸の定義/種類)		
	12	核酸の構造と機能 2 (ヌクレオチド・核酸の構造と性質)		
	13	酵素の構造と性質 1 (酵素の定義と分類/酵素の特徴)		
	14	酵素の構造と性質 2 (酵素反応論/酵素による代謝調節)		
	15	酵素の構造と性質 3 (補酵素とビタミン/酵素の臓器特異性)		
	16	試験		
授 業 形 態	単独。授業の終わりに内容のまとめを質疑応答を交えて行う。			
テ キ ス ト	阿部喜代司他著「臨床検査学講座「生化学」」(医歯薬出版) 岡田隆夫著「楽しくわかる生物・化学・物理」(羊土社)			
参 考 文 献	遠藤克己他著「生化学ガイドブック」(南江堂) 相原英孝他著「イラスト生化学入門」(東京教学社)			
評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%), レポート(10%), 授業への取組(10%)。 生体構成物質の分類と機能を説明することができる。試験の結果を伝え、フィードバックを行う。			
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	授業で板書された内容を復習し、理解できなかった部分を調べて補い授業ノートを完成させる。 予習・復習合計4時間			
オ フ ィ ス ア リ ー	木曜日 16:00~18:00			
履 修 上 の 項 注 意 事 項	授業ノート、配布プリントは2年次の臨床化学I・IIの講義でも使用する。			

授 業 科 目	生化学Ⅱ (代謝生化学)	授業の方法・単位	演習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	富永 麻理		
授 業 の 目 的	生化学Ⅰで学んだ生体成分の物質化学を基礎に、生体物質の流れを把握するために、代謝過程を理解し、臨床検査学の基礎となるヒトの体で起こる化学反応を習得する。		
到 達 目 標	生体物質の合成・機能発現・分解過程を学び、生体物質の流れを理解することができる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	生命現象と代謝	
	2	糖質代謝 1 (糖質の消化吸収/グリコーゲンの合成と分解)	
	3	糖質代謝 2 (解糖系と糖新生系/ペントースサイクル)	
	4	糖質代謝 3 (TCAサイクル/その他の糖代謝)	
	5	脂質代謝 1 (脂質の消化吸収/脂肪酸の合成/中性脂肪の合成)	
	6	脂質代謝 2 (リン脂質・糖脂質の代謝/脂肪酸の酸化分解)	
	7	脂質代謝 3 (コレステロールの代謝/臓器間脂質代謝)	
	8	アミノ酸タンパク質代謝 1 (タンパク質の消化吸収/合成/分解の概略)	
	9	アミノ酸タンパク質代謝 2 (アミノ酸の分解経路と合成/各アミノ酸代謝)	
	10	アミノ酸タンパク質代謝 3 (尿素サイクルとアンモニアの処理)	
	11	エネルギー代謝 1 (ATPと仕事/高エネルギー化合物)	
	12	エネルギー代謝 2 (生体酸化系とATP生成)	
	13	核酸代謝 1 (核酸の消化吸収/ヌクレオチドの合成/DNA・RNA合成)	
	14	核酸代謝 2 (核酸によるタンパク合成/核酸の分解)	
	15	代謝の概要・物質の相互変換	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。授業の終わりに内容のまとめを質疑応答を交えて行う。		
テ キ ス ト	阿部喜代司他著「臨床検査学講座「生化学」」(医歯薬出版)		
参 考 文 献	遠藤克己他著「生化学ガイドブック」(南江堂) 相原英孝他著「イラスト生化学入門」(東京教学社)		
評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%)、レポート(10%)、授業への取組(10%)。 生体物質の代謝過程を説明することができる。試験の結果を伝え、フィードバックを行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	前期生化学Ⅰの方法に従い授業ノートを完成させる。予習・復習合計2時間		
オ フ ィ ス ア リ ー	木曜日 16:00~18:00		
履 修 上 の 注 意 事 項	授業ノート、配布プリントは2年次の臨床化学Ⅰ・Ⅱの講義でも使用する。		

授 業 科 目	生化学実習	授業の方法・単位	実習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	富永 麻理、福永 佐枝、岩本 昌大		
授 業 の 目 的	生体内で起こる様々な化学反応を理解するため、その反応を試験管内で再現し考察することができるようになる。		
到 達 目 標	生命体を構成する糖、タンパク質、脂質、核酸などを材料に、生化学実験を行う。まず、生化学分析に必要な基本的な実験手技を学ぶ。次に、生体高分子の単離を行い、それらの構造や性質を調べ、さらに、生体内で起る動的反応を化学的に解析し、生化学分析の考え方や手法を把握できる。		
授 業 の 計 画 各 回 3 時 間	1	生化学実験の予備知識 (器具の名称・取り扱い・実験データの記録や処理・レポート作成)	
	2	基礎実習 1 (ピペットの使い方)	
	3	基礎実習 2 (溶液の調整・希釈)	
	4	基礎実習 3 (pHの知識)	
	5	基礎実習 4 (pHメーターの使い方)	
	6	糖質 (糖の定性反応)	
	7	脂質 (脂質の定量)	
	8	アミノ酸・タンパク質 1 (アミノ酸・タンパク質の紫外吸収スペクトル)	
	9	アミノ酸・タンパク質 2 (タンパク質の定量)	
	10	核酸 1 (細胞からのDNA抽出)	
	11	核酸 2 (DNAの定量・純度の検定)	
	12	酵素 (唾液アミラーゼによるデンプンの加水分解)	
	13	試薬調整の計算 (演習)	
	14	試薬調整 (実技)	
	15	実技試験 (器具・機器の使い方)	
	16	試験	
授 業 形 態	共同。3～4人の班をつくり、グループワークやディスカッションを交える。		
テ キ ス ト	山本克博著「はじめてみよう生化学実験」(三共出版)		
参 考 文 献	阿部喜代司他著「臨床検査学講座「生化学」」(医歯薬出版)		
評 価 方 法・基 準	試験(60%)、レポート(30%)、授業への取組(10%)。生化学実験に必要な実技を習得し、理解を試験やレポートに反映させることができる。レポートを返却し、試験の結果を伝え、フィードバックを行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	出題された課題がある場合は、それを仕上げる。実習項目に関するレポートを期日までに必ず提出できるようにしておく。		
オ フ ィ ス ア リ ー	富永：木曜日16：00～18：00 岩本：金曜日9：00～11：00 福永：金曜日16：00～17：00		
履 修 上 の 注 意 事 項			

授 業 科 目	病理学総論	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	三木 友香理		
授 業 の 目 的	臨床検査技師に求められる基本的医学知識として、病気（疾病）が、どのような原因で発生し、どのように人体に影響を与えるのかについて理解する。また、正常な状態と比較して形態や機能にどのような変化が生じるのかについて理解する。		
到 達 目 標	臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、その原因や特徴が説明できる。 さらに、日本人の死因として重要な病気や罹患率の高い病気について、病態が説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	病理学とは何か、病理検査、病気の原因	
	2	細胞傷害と細胞増殖、組織、細胞の修復と再生	
	3	循環障害 ①（局所的循環障害）	
	4	循環障害 ②（全身的循環障害）	
	5	炎症	
	6	感染症	
	7	免疫機構の異常	
	8	遺伝と先天異常	
	9	腫瘍 ①（腫瘍の概念、腫瘍の特徴）	
	10	腫瘍 ②（腫瘍の広がりや影響、腫瘍の発生病理）	
	11	腫瘍 ③（腫瘍と宿主の関係、がんの病期、がんの病理診断）	
	12	代謝異常 ①（細胞傷害に対する細胞の適応、物質沈着）	
	13	代謝異常 ②（タンパク質代謝異常、脂質代謝異常）	
	14	代謝異常 ③（糖質代謝異常、栄養障害、生活習慣病）	
	15	老化と死	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	『シンプル病理学』 笹野公伸、他（南江堂） 『最新臨床検査学講座 病理学／病理検査学』 松原 修、他（医歯薬出版）		
参 考 文 献	『トリセツ・ヤマイ』 海堂 尊（宝島社）、『はじめての病理学』 清水道生（ナツメ社）、 『なるほどなっとく！病理学』 小林正伸（南山堂）、『標準病理学』 坂本穆彦（医学書院） 『はじめの一歩のイラスト病理学』 深山正久（羊土社）		
評 価 方 法 ・ 基 準	試験（60%）、小テスト・課題（30%）、授業への取組（10%）。 臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、その原因や特徴が説明できる。 試験のフィードバックは病理学各論、病理検査学で行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	講義の前後に教科書をよく読み、図や写真を含めて十分に理解する。 毎回講義の最初に、前回の内容について小テストを行うのでしっかり復習しておく。 予習・復習合計4時間		
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週 月曜 17:40～18:40 在室時はこれ以外でも随時可		
履 修 上 の 注 意 事 項	現代の医療問題について日常的に興味関心を持ち、常に自らその問題について考えること。		

授 業 科 目	微生物学	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	松崎 茂展		
授 業 の 目 的	微生物とは、肉眼では見ることで見えない微小な生物であり、非常に多くの微生物が我々のまわりに存在し、共に生活している。微生物のうち医学的に重要である病原微生物について理解する。		
到 達 目 標	微生物の取り扱い方、病原微生物の感染経路、感染症について説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	微生物学の歴史および微生物の種類・特徴	
	2	真核生物と原核生物の違い、真菌、細菌及びウイルスの構造、機能、代謝、増殖	
	3	微生物感染に関わる用語	
	4	人獣（畜）共通感染症と新興・再興感染症	
	5	食中毒起因微生物（細菌、ウイルス）	
	6	滅菌と消毒の違いや、微生物検査で用いられる器具等の滅菌方法と消毒液の使用法	
	7	化学療法1：抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬の種類と作用機序	
	8	化学療法2：ワクチンの種類と薬剤耐性菌	
	9	細菌学各論1：グラム陽性菌（芽胞形成菌、芽胞非形成菌）	
	10	細菌学各論2：グラム陰性菌（1）	
	11	細菌学各論3：グラム陰性菌（2）	
	12	細菌学各論4：特殊な細菌（抗酸菌、マイコプラズマ、スピロヘーター、クラミジア、リケッチア）	
	13	真菌感染症	
	14	微生物分離、性状解析に用いる培地	
	15	微生物（細菌、真菌、ウイルス）の染色法	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	「臨床検査学講座 臨床微生物学 第1版」 医歯薬出版株式会社		
参 考 文 献	「戸田新細菌学」改訂32版 南山堂		
評 価 方 法 ・ 基 準	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取組（10%）。各講義の到達目標の理解度を小テストで評価する。フィードバックは、採点終了後に総評を伝える。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	課題を毎回出すので、次週講義にて発表。課題・講義内容の予習2時間、復習・小テスト対策2時間		
オ フ ィ ス ア フ タ	木曜日16:00～18:00		
履 修 上 の 注 意 事 項	項目ごとに課題を出すので、授業開始までに発表できるように準備しておく。		

授 業 科 目	血液学	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	高岡 榮二		
授 業 の 目 的	臨床検査技師に求められる基本的な知識を習得するために、血液学の視点から生命活動を把握し、血液の成分と機能について学習し説明できるようになる。		
到 達 目 標	血液の成分である赤血球系、白血球系、血小板系の形態学的特徴と機能、さらに止血、凝固、線維素溶解に関わる因子と機序について、整理して説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	血液学総論1（血液の成分、血液の性状、血液の機能）	
	2	血液学総論2（血球の分化、造血臓器、髄外造血、胎生期造血）	
	3	赤血球の分化と成熟、網状赤血球	
	4	赤血球の寿命と崩壊、赤血球の形態と機能	
	5	赤血球のエネルギー代謝、ヘモグロビンの構造と代謝	
	6	体内鉄の分布と代謝、ビタミンB12と葉酸の代謝	
	7	小テスト・解説(赤血球系)、白血球の種類と数、顆粒球の分化と成熟	
	8	白血球の形態と機能（好中球、好酸球、好塩基球）	
	9	白血球の形態と機能（単球、リンパ球）	
	10	小テスト・解説（白血球系）、血小板の産生と回転、血小板の形態	
	11	止血機序(一次止血と二次止血)、血小板の機能	
	12	血液凝固因子の種類と機能	
	13	血液凝固反応(内因系、外因系)、血液凝固抑制因子	
	14	線維素溶解の因子と機序	
	15	小テスト・解説（止血系）、線溶抑制因子	
	16	試験	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	『最新臨床検査学講座第1版 血液検査学』 奈良信雄、他（医歯薬出版） 『ビジュアル臨床血液形態学 改定第3版』 平野正美（南江堂）		
参 考 文 献	「三輪 血液病学」 浅野茂隆監修（文光堂）ほか、研究室の参考図書も紹介する。		
評 価 方 法 ・ 基 準	総合試験(60%)、小テスト(30%)、講義ノート(10%)。血液の成分と機能について説明できる。小テストを返却してフィードバックを行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	予習1時間(授業範囲のテキスト通読)、復習3時間（ノート作成、知識の整理）		
オ フ ィ ス ア リ ー	水曜日16:00-18:00		
履 修 上 の 注 意 事 項	テキストを熟読して整理された講義ノートを作成すること。单元ごとに小テストを課すので、十分復習して理解しておくこと。学外講演会などにも積極的に参加することが望ましい。		

授 業 科 目	医学概論	授業の方法・単位	講義・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 前期		
担 当 教 員	松浦 喜美夫		
授 業 の 目 的	医療の発展をもたらした現代医学の基本について概説する。		
到 達 目 標	疾患の原因、症状、治療に関わる科学的・社会的知識を身につける。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	医学の歴史	
	2	疾患の原因（病因論）（1）	
	3	疾患の原因（病因論）（2）	
	4	疾患の診断（診断学）	
	5	疾患の治療（治療学）	
	6	疾患の経過と転帰	
	7	患者の心理	
	8	救急医療	
	9	試験	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	『医学概論』 日野原重明／医学書院、服部成介、水野・菅野純子、菅野純男監修「よくわかるゲノム医学」改訂第2版、2016年（羊土社）		
参 考 文 献	新川 昭夫、阿部 京子 著「遺伝学への招待」（南江堂）		
評 価 方 法 ・ 基 準	試験（80％）、レポート（10％）、授業への取組（10％）。評価の詳細な方法やフィードバックについては授業の初回で説明する。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	授業の内容の予習・復習をしっかりと行うこと 予習・復習4時間		
オ フ ィ ス ア ワ ー	放課後、または電子メールで受け付ける（アドレスは授業終了後に問合せください）		
履 修 上 の 注 意 事 項	授業時間中に質問時間を設けるので、なんでも積極的に質問すること		

授 業 科 目	チーム医療概論	授業の方法・単位	演習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科・管理栄養学科 1年 後期		
担 当 教 員	山中 茂雄、松浦 喜美夫、渡邊 慶子、矢野 智恵、小野川 雅英、森田 尚亨、坂本 まゆみ、松崎 茂展、宮崎 登美子、福井 康雄、竹崎 陽子、光岡 妙子		
授 業 の 目 的	最近の医学のめまぐるしい進歩に伴い医療の高度化、専門化も急速に進展している。また、超高齢化社会の到来に伴う疾病構造もこれまでとは大きく異なってきている。したがって、医療においては全ての医療専門職が職種間の相互理解を基盤とし、強固な連携による効果的なシステムにより、これらに対応していかなければならない喫緊の状況にある。この科目は実際の医療現場におけるチーム医療に必要な知識や行動および判断力などについて学び、チーム医療の一員として、質の高い安全で安心な医療を実践できる人材を育成することを目的とする。		
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療に対する社会の多岐にわたるニーズについて説明できる。 2 病院等の施設で実施されている NST や ICT などのチーム医療における専門職の役割について、その重要性・必要性を説明できる。 3 実際に医療施設で行われている各分野のチーム医療を理解し、各専門職の重要性・必要性を説明できる。 		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	医療に対する社会のニーズの変遷・チーム医療成立の歴史・チーム医療の重要性	山中
	2	チーム医療における医師の役割	松浦
	3	チーム医療における管理栄養士の役割	渡邊
	4	チーム医療における臨床検査技師の役割	山中
	5	チーム医療における看護師の役割	矢野
	6	チーム医療における薬剤師の役割	小野川
	7	チーム医療における診療放射線技師の役割	森田
	8	チーム医療における理学療法・作業療法士の役割	宮崎
	9	チーム医療における言語聴覚士の役割	宮崎
	10	チーム医療における歯科衛生士の役割	坂本
	11	院内感染対策チーム（ICT）による連携	松崎
	12	栄養サポートチーム（NST）による連携	福井
	13	褥瘡予防対策チームによる連携	竹崎
	14	緩和ケアチームによる連携	光岡
	15	医療安全対策チームによる連携	山中
授 業 形 態	オムニバス。グループワークとディスカッションを交える。		
テ キ ス ト	配布資料		
参 考 文 献	栄養科学シリーズ NEXT「医療概論」（講談社）、「臨床検査技師のためのチーム医療教本」（じほう）		
評 価 方 法 ・ 基 準	レポート（60%）、授業への取組（40%）評価基準の詳細はルーブリックに基づいて初回に説明する。レポートの評価のポイントを提示してフィードバックを行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	演習の前に参考文献などをよく読み、チーム医療の概要を理解する。 毎回の講義で学習したことをしっかりレポートにまとめる。 予習・復習合計2時間		
オ フ ィ ス ア リ ー	放課後		
履 修 上 の 注 意 事 項			

授 業 科 目	臨床医学総論	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	松浦 喜美夫		
授 業 の 目 的	病気の主な原因とその際に起こる人体の組織・器官の変化の基本的知識を身につけ、病気の診断と治療についても必要な知識を学ぶ。患者の心理や社会における医療の役割を理解する。		
到 達 目 標	病気の主な原因とその際に起こる人体の組織・器官の変化の概要を説明できる。また、病気の診断と治療がどのように行われるか、および病気の診断と治療の過程で行われる多種類の検査のもつ意義を説明できる。さらに、先天奇形、主な染色体異常症候群、および損傷・中毒・その他の外因が人体にもたらす影響を説明できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	病気になる身体の変化 (1) 血行障害	
	2	病気になる身体の変化 (2) 進行性病変と退行性病変	
	3	病気になる身体の変化 (3) 炎症	
	4	病気になる身体の変化 (4) 腫瘍	
	5	病気になる身体の変化 (5) 奇形	
	6	病気になる身体の変化 (6) 染色体異常、その他	
	7	損傷	
	8	検査所見 (1) 血液、尿、画像検査など	
	9	検査所見 (2) 生理学的検査、病理組織検査、遺伝子診断など	
	10	病気の子防 (予防医学、衛生学)	
	11	医療システム	
	12	医療における倫理、患者の権利、病状告知 (インフォームドコンセント)	
	13	脳死と臓器移植	
	14	緩和医療	
	15	在宅医療・チーム医療	
授 業 形 態	単独。		
テ キ ス ト	最新臨床検査学講座 『臨床医学総論/臨床検査医学総論』 奈良信雄、高木康、和田隆志編/医歯薬出版		
参 考 文 献	『医学概論』 日野原重明/医学書院、 『学生のための医療概論』 千代豪昭/医学書院		
評 価 方 法・基 準	レポート (80%)、授業への取組 (20%) 評価の詳細な方法やフィードバックの方法については授業の初回で説明する。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	配布資料を元に授業の内容を復習し理解を深める。予習・復習合計4時間		
オ フ ィ ス ア フ タ ー	授業終了後、または電子メールで受け付ける (アドレスは授業終了後に問合せください)		
履 修 上 の 注 意 事 項	授業中に質問時間を設けるので、積極的に質問すること。		

授 業 科 目	臨床検査学基礎実習	授業の方法・単位	実習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 前期		
担 当 教 員	山中 茂雄、松崎 茂展、小野川 雅英、三木 友香理、福永 佐枝、松崎 梢、岩本 昌大		
授 業 の 目 的	臨床検査の実習を行う上で必要な基礎的な知識と技術を習得するために、臨床検査の特性に応じた生物学、化学、物理学、数学などを理解し、さらに、自己と他者が危険なく実習を実施するために、安全対策、感染予防対策について学習する。		
到 達 目 標	臨床検査の実習で使用する単位、試薬、器具・機器の名称、原理を理解し、適切に使用できる。数学的概念を理解し、基本的な試薬調製ができる。実験を行う上で必要な基本的手技を身に付け、それを活用できる。		
授 業 の 計 画 各 回 3 時 間	1	臨床検査数値の取り扱い(1) 基礎数学	山中
	2	臨床検査数値の取り扱い(2) 単位、有効数字、濃度の概念	山中
	3	臨床検査数値の取り扱い(3) 実習に必要な数学理論と公式	山中
	4	実験の心得・実験室安全のためのマニュアル 実験にあたっての予備知識、実験の記録・データの処理とレポートのまとめ方	山中
	5	水と試薬の選択、薬品の取り扱い方	小野川・岩本・福永
	6	実験器具の種類と操作方法	小野川・岩本・福永
	7	感染予防・感染性廃棄物の取り扱い方法	松崎茂
	8	天秤の取り扱い方法	小野川・松崎梢・福永
	9	試薬の希釈・濃度の考え方(%濃度、モル濃度)	小野川
	10	試薬の希釈・濃度の考え方(当量、中和)	小野川
	11	基本的な試薬調整	小野川・岩本・福永
	12	遠心器の種類と取り扱い方法	山中・福永・松崎梢
	13	顕微鏡の原理と取扱い方法	三木・松崎茂・岩本
	14	分光光度計の理論	山中
	15	分光光度計の取り扱い方法	山中・岩本・松崎梢
	16	試験	
授 業 形 態	オムニバス、共同(一部)。グループワークやディスカッションを交える。		
テ キ ス ト	鈴木優治 他著「臨床検査学 基礎実習」(一般社団法人日本臨床検査学教育協議会) 岡田隆夫著「楽しくわかる生物・化学・物理」(羊土社)		
参 考 文 献	各授業で指定		
評 価 方 法 ・ 基 準	試験(70%) (実技試験も含む)、レポート (20%)、授業への取組 (10%)。臨床検査の実践に必要なとなる基本的手技を理解し身に付ける。試験の結果を伝えフィードバックする。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	授業前にテキストの該当範囲を読んでおく。また、授業後に配布物やテキストをよく読み、内容を理解しているかの確認を行う。		
オ フ ィ ス ア フ タ ー	水曜日16:00~17:00		
履 修 上 の 注 意 事 項			

授 業 科 目	臨床検査総論	授業の方法・単位	講義・2単位	
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期			
担 当 教 員	奥宮 敏可、森本 徳仁			
授 業 の 目 的	臨床検査学を理解するために一般検査（尿、糞便、脳脊髄液、穿刺液、その他）の定義、検査方法、基準値などについて知り、説明できるようになる。			
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・各検体(上記参照)の定義、検査方法、基準値について説明できる。 ・検体の採取、保存方法について説明できる。 			
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	講義の概要	授業の進め方、臨床検査学総論の概要	奥宮
	2	検体採取	検体の種類と取扱い	奥宮
	3	基礎知識	腎の解剖と尿の生成	奥宮
	4	尿検査(1)	一般性状	奥宮
	5	尿検査(2)	尿蛋白、尿糖、アセトン体	奥宮
	6	尿検査(3)	ビリルビン、ウロビリニン体	奥宮
	7	尿検査(4)	ポルフィリン体、血尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿、その他定性検査	奥宮
	8	尿形態検査(1)	尿沈渣標本作製法、尿沈渣(円柱と腎疾患)	奥宮
	9	尿形態検査(2)	尿沈渣(非細胞成分と細胞成分)	奥宮
	10	脳脊髄液検査	生成と組成、一般性状、検査方法	森本
	11	脳脊髄液検査	細胞数算定	森本
	12	糞便検査	生成と組成、一般性状、潜血反応	森本
	13	精液検査	一般性状、検査方法、意義	森本
	14	穿刺液検査	体腔液の種類、一般性状、意義	森本
	15	その他検査	その他検査の種類、測定方法、意義	森本
授 業 形 態	オムニバス。スライドおよびテキストを交えて、授業を進める。			
テ キ ス ト	三村邦裕 他「最新臨床検査学講座 一般検査」(医歯薬出版) 酒井伸枝 他「JAMT 技術教本シリーズ 一般検査 技術教本」一般社団法人日本臨床衛生検査技師会(丸善出版)			
参 考 文 献	河合忠 他著「尿沈渣 その知識と病態の考え方」(株式会社メディカルジャーナル社) 日本臨床衛生検査技師会髄液検査法編集ワーキンググループ「髄液検査法 2002」(社団法人日本臨床衛生検査技師会)			
評 価 方 法 ・ 基 準	試験(80%)、レポート(10%)、授業への取り組み(10%) 上述の達成目標を達成できる。レポートは返却してフィードバックを行う。			
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	テキストを事前に読んでおくこと。 授業内容を復習し、理解を深めること。		予習1時間 復習3時間	
オ フ ィ ス ア フ タ ー	奥宮：授業終了後 森本：月曜日16:00~18:00			
履 修 上 の 注 意 事 項	テキストをよく読み、分からないところは質問すること。 適宜、国家試験過去出題問題に目を通すとよい。			

授 業 科 目	救急救命法	授業の方法・単位	演習・1単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科・管理栄養学科 1年 後期集中		
担 当 教 員	小野川 雅英、中村 泰子		
授 業 の 目 的	医療人として必要不可欠な救急処置を理解したうえで基本技術を修得することを目的とする。		
到 達 目 標	救急法の基本、応急手当及び救急手当について説明できる。また実践的な救急法の基本技術を身につける。さらに本講座は日本赤十字社の指定講習に認定されており、日本赤十字社の救急法救急員の資格試験に合格することができる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	生体機能管理技術（バイタルサイン）	
	2	健康、安全について	
	3	知識と行動の違いについて	
	4	自己保全と安全について	
	5	見える危険と見えない危険について	
	6	人が倒れた場合の対処について	
	7	救急法の範囲	
	8	応急手当と救命手当	
	9	心肺蘇生法（AEDの操作を含む）	
	10	傷と止血法	
	11	包帯法	
	12	骨折 脱臼 捻挫の対応	
	13	急病について	
	14	搬送について	
	15	救護について	
	16	試験	
授 業 形 態	共同。グループワークとディスカッションを交える。		
テ キ ス ト	「救急法講習教本」、日本赤十字社編集、(株式会社 日赤会館)		
参 考 文 献	副読本		
評 価 方 法 ・ 基 準	指導員の方から学ぶ実技を身につけ、授業内容を理解する。講義・実技練習後、初日から学科検定、実技検定を行う。最終日は日本赤十字社救急法救急員の認定試験を兼ねた実技検定、学科検定試験がある。実技（50%）、筆記（50%）。合格者には後日、赤十字救急法救急員の認定証が配布される。試験後、授業の振り返りを希望者対象に行う。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	授業の内容を復習し、理解を深めること。予習・復習合計2時間		
オ フ ィ ス ア フ タ ー	集中実習期間中授業終了後 17:40～18:40		
履 修 上 の 注 意 事 項	この授業は4日間の集中講義である。講義と実習を織り交ぜながら実施する。2回目以降はグループ、バディシステムで救護法を学ぶ。救急法の指導は、赤十字救急法指導員が直接行う。		

授 業 科 目	生理機能検査学 I (基礎)	授業の方法・単位	講義・2単位
開 講 学 科 等	健康科学部臨床検査学科 1年 後期		
担 当 教 員	今井 正、中村 泰子		
授 業 の 目 的	生理機能検査のうち循環・神経筋・呼吸生理・感覚機能検査の基礎と検査法を学ぶ。		
到 達 目 標	循環生理では心電図の発現機構や誘導法の原理と検査法、心周期と心音・脈波検査法、神経筋生理では脳波の発現機構や誘導法と検査法、筋電図の発現機構と検査法、呼吸生理では肺機能に 関係する法則や記号と肺気量分画、酸塩基平衡と代謝など、生理検査の計算や症例演習のための 基本的な知識を習得できる。		
授 業 の 計 画 各 回 2 時 間	1	心電図検査 1 (臨床的意義、刺激伝導系、心電図発現の機構)	中村
	2	心電図検査 2 (心電図誘導法)	中村
	3	心電図検査 3 (心電図波形の成り立ち、心電図波形の基準、計測)	中村
	4	心音図検査 (臨床的意義、心音の成因と性質、心内圧曲線と心音、異常心音)	中村
	5	脈管疾患検査 (臨床的意義、ABI、PWV、TBI、指尖容積脈波、FMD)	中村
	6	神経系検査の基礎 (大脳皮質機能局在、脳幹、小脳、脊髄、反射)	今井
	7	脳波検査 1 (臨床的意義、脳波発現の機序、 δ 波・ θ 波・ α 波・ β 波、棘波、鋭波、波形表現法)	今井
	8	脳波検査 2 (電極の配置、導出法、正常脳波：成人、小児、高齢者)	今井
	9	脳波検査 3 (賦活法：開閉眼、過呼吸、閃光刺激、睡眠脳波、睡眠時無呼吸検査)	今井
	10	筋電図検査 1 (臨床的意義、針筋電図、表面筋電図)	今井
	11	筋電図検査 2 (神経伝導検査、反復神経刺激試験、経頭蓋磁気刺激検査)	今井
	12	呼吸機能検査 1 (臨床的意義、基礎的事項、VC、FVC、フローボリューム曲線、機能的残気量)	今井
	13	呼吸機能検査 2 (肺コンプライアンス、CV、DLco、気道抵抗、呼吸抵抗、換気血流比)	今井
	14	血液ガス (臨床的意義、分析法、検体の取り扱い、判定)、エネルギー代謝	今井
	15	感覚機能検査 (平衡機能検査、眼底カメラ、聴覚・味覚・嗅覚検査)	今井
授 業 形 態	オムニバス。		
テ キ ス ト	「臨床検査学講座 生理機能検査学」 医歯薬出版		
参 考 文 献	「臨床生理機能検査」 メディカルビュー社		
評 価 方 法 ・ 基 準	各生理検査の意義と方法、正常値を中心に学習してください。定期試験後、授業の振り返りを希望者には行います。定期試験 (70%)、小テスト (20%)、授業への取組 (10%)。		
授 業 時 間 外 に 必 要 な 学 習 内 容 と 時 間	毎回小テストで前の授業の復習をします。予習、復習は欠かさないようにしてください。 予習・復習合計 4 時間		
オ フ ィ ス ア リ ー	火曜日 11:50~12:50		
履 修 上 の 注 意 事 項	生理機能検査の基礎をこの授業では学びます。生理機能検査学 II はこの授業を元に異常波形、異常値、疾患を学びます。また各検査の波形を見たい学生は申し出て下さい。実習室で説明します。		